

フリースクールでの SW 実践を考える①

高名 祐美

38年間のMSW生活を2021年3月末に終えた私は、現在フリースクールで働いている。高齢者のサービスを母体とするNPO法人で、学童も受け入れている。医療機関からフィールドを地域に移して、ソーシャルワーク実践を継続していきたいと選んだ職場だ。ここで出逢った子供たちとのかかわりを通して、フリースクールでのSW実践を考えていきたいと思う。

I ももちゃんのカ

ももちゃんは中学2年生。小柄でおとなしい、読書が好きな女の子だ。吹奏楽部に所属して、パーカッションを担当している。定期演奏会で演奏することを目標に、部活動を頑張っていた。志望校もほぼ決めていて、しっかり勉強にも取り組む頑張り屋さんだ。そんな学校生活を送っていたももちゃんが、5月の連休明けから朝起きられない、起きても「おなか痛い」と訴え、欠席するようになった。身長が低いこと、部活で先輩に挨拶をしなかったと言われて、友達から無視されるようになったことがきっかけらしい。

登校できた日は図書室で自己学習し、部活動には参加していた。吹奏楽部では8月には定期演奏会が予定されていた。定期演奏会には出演したいと練習を続けていたが、仲良しだった部員から無視される日々が続いた。頑張っ自分から挨拶をしても、言葉を返してくれない。そして、ももちゃんの心が折れた。部活動に参加できなくなり、夜眠れなくなった。母親と寝室を共にするようになったが、学校に登校できる日が少なくなっていった。

そんなももちゃんと、私は9月に出会った。最初にお母さんと面接をし、その翌日ももちゃんがフリースクールにやってきた。中学生の女の子を前に、私はとても緊張した。クライアントが中学生。心が傷ついている女の子。想像力を最大限に働かせる。ももちゃんは、今どんな状況にあるのだろうか。まずはアセスメントからと思うが、どういう言葉をかけた方がいいのか。なぜか質問がうまくでてこない。これまでのソーシャルワーカー経験がふっとんでしまったかのようなももちゃんとの初回面接だった。(お母さんとの面接は、問題なくできたのだが)

ももちゃんにとって、フリースクールがどうあれば居心地のよい場になるのか。そればかり考えていた。自分が何をしたらいいのかは、なかなか答えがみつからない。あえて学校の

ことにはふれず、まずはやりたいことを尋ねてみた。

SW：ここで何をやりたいかな？

もも：勉強。それと読書かな。

SW：勉強はどんなふうにやりたい？

もも：自分で教科書ワークとかやっていく。

SW：そうか。自分でやるんだね。(教えてほしいと望まれても、私には教えられないけど・・・)

もも：(だまってるなずく)

SW：一日長いけど、時間割をつくって、過ごしてみようか。ここではとなりのディサービスで体操や脳トレをやっているし、一緒に体操をするのはどう？

もも：(首を横にかしげて)・・・・・・・・

SW：体操はあまりしたくない？やめておく？

もも：うん。

児童福祉に関しては、知識は乏しく経験もないままに飛び込んだ職場。そこで出会った初めてのクライアントがももちゃんだった。面接が一方通行のようなやりとりにならな

い。何をして時間を過ごしたらいいのか、ももちゃんの世界をどうしたら理解できるのか、そんなことばかり考えていた。

ももちゃんのお母さんとの初回面接は、ジェノグラムと一緒に書きながらすすめた。ももちゃんの家族システムを理解したいと考えたからだ。今の職場にきて、初めてのジェノグラム面接だった。ももちゃんがこれまでどんなふうに家族の中で生活してきたか、少しずつみえてきた。4人姉弟の長女。3人の弟(小学5年生・小学2年生・保育園年中)のお姉ちゃん。お父さんは自営でお惣菜のお店で働いていた。お母さんの実家の隣が店で、おじいちゃん・おばあちゃんが孫たちをみてくれていた。お母さんは、保育園で栄養士として勤務しながら店を手伝ったりしていた。すぐ下の弟(小学5年生)も不登校だった。

フリースクールに通い始めて1か月がたったころ。朝、ももちゃんから提案があった。「素敵な演奏を聞かせてくれる人と出会ったから、その演奏をディサービスのおじいちゃん・おばあちゃんたちとここで働いている人にも聴いてもらいたい」と。自分からやりたいことを積極的に言葉にして伝えてくれたのは初めてだった。詳しく内容を聴くと、どうも自分からそのアーティストにお願いしたと。昨日の夜、お母さんに促されて、今朝電話をかけ演奏を依頼したという。その積極的な態度に私は驚かされた。管理者の了解も得られ、急きよその日のお昼に演奏会が開催されることになった。

SW：どんな演奏なの？

もも：ハンドパンっていう楽器で、すごくきれいな優しい音。

SW：演奏してくれる人はどんな人？

もも：毎年稲刈りの時期にこの地域で演奏してくれる愛知県の人。夫婦で来てくれる。昨日の夜も演奏会があって聴いてきた。

SW：そうなんだ。どんな楽器なの？ハンドパンって。

もも：なんかタイヤみたいな楽器、手でたたいたりなでたりしてきれいな音を出す。聴くとすごく優しい気持ちになれる。

SW：優しい気持ちになれるの。いいね。私は聴いたことがないから、楽しみね。

もも：(うなずく)

昼食を食べ終わったころ、演奏してくれるご夫婦がやってきた。今か今かと待っていたももちゃんは、二人の乗った車が到着するや否や外へ飛び出していった。そして、最初にだんなさん、次に奥さんの方に駆け寄ってハグされて照れくさそうにしていた。

演奏はももちゃんが言う通り、心が癒される素敵な優しい音楽だった。なにより演奏しているご夫婦のお人柄が温かく、このご夫婦の人となりにももちゃんは魅かれたのだなと思った。と同時に、こんな素敵な音楽を教えてくれたももちゃんの心の中を、もっともっと知りたいと思った。

演奏会が終わったあと、ももちゃんに今日の出来事を書いて残しておこうと提案し、作文を書いてもらった。以下、その作文の一部を紹介したい。

「ナオティティティア なおさんとみきさん」

加山 萌々

初めて会ったのは、9月に「ひかり保育園」で演奏してもらったときです。初めて会ったのに、すごく優しく接してくれて嬉しかったです。その次の日、天日陰ひめ神社で稲刈りのイベントがあって、その時から二人と話すようになりました。

この演奏を聴くとすごく温かい気持ちになれます。二人とも優しい人なのでそれが演奏にも出ていると思いました。(中略)

頭の中で音が響いて伝わってくるのが私は好きです。今までケンカしていた人たちがこの曲を聴いたらケンカが止まるんじゃないかと思うほど優しい歌だと思います。(中略)

私が今日「ひなたぼっこ」(フリースクール)に二人を呼んだのは、私も聴きたかったのもあるけれど、もっといろんな人に聴いてもらいたいと思ったからです。お願いして、二人ともやっぱりいい人たちだと思いました。昨日言えなかったので、今日の朝連絡しました。すごく急だったのに「全然いいよ～」って答えてくれました。いつもだったらお母さんに頼んでもらうけど、今回初めて自分の口で頼むことができました。

普通だったらお金が必要だけど、私には無理なのでお父さんをお願いしてお弁当を用意してもらったり、急に朝、「ひなたぼっこ」に場所をお願いしたり、いろんな人が協力してくれたからできた

ことだし、みんなも喜んでくれてとてもよかったです。あのままあきらめていたら絶対後悔したので、「電話してみる？」と声をかけてくれたお母さんにも感謝します。(中略)

演奏の後は、みんなから「ありがとう」って言われて、来てくれた二人からも「ありがとう」って言われて感謝したいのは私の方なのに。二人ともすごくいい人たちだなと改めて思いました。

私が自分の口で頼むことができたのは、なおさんとみきさんの人柄がいいからだったのかなと思います。もっといろんな人にきれいな音楽をきいてもらいたいです。

(文中に登場する固有名詞は仮名)

この作文を読んで、胸が熱くなった。ももちゃんの力がいたるところに表現されていた。この力をエンパワメントしていくことが私の役割なのだと感じた。ももちゃんとのかかわりは始まったばかり。私のフリースクールでの SW 実践もまだまだこれからだ。ももちゃんのストレングスを引き出し、これからの人生を歩んでいく道筋を一緒に作っていきたいと思う。